

まっすくへな地平線

## まっすくへな地平線

4年 M・Wさん

「地平線」という言葉を辞書で調べると、「地面と空の境界をなす線」と書いてありました。地平線の向こうには私の知らない人や知らない世界が広がっているのだと思います。

でも、よく知らないのです。地平線の向こうにふみこむ勇気が出ず、不安になります。たとえば、外国の人が大きな声でしゃべったりしていると、良くないイメージで決めつけてしまっている自分があります。このように、よく知らないのに抱く気持ちのことを「偏見」というのだと、父が教えてくれました。

この本に出てくる中国人のミンミンという女性は、とてもまっすくな性格をしています。それは、主人公の悠介がはずかしくなるとまどろくらしいです。日本人が周りを気にしすぎなのか、外国の人が大たんなのは分かりませんが、私もきつと悠介と同じ気持ちになったと思います。

理解できないミンミンの行動にいら立っていた悠介は、ミンミンの辛い過去を知った時、もっくミンミンのことを知ろうと思ったのでした。

ミンミンは、「おたがいのことをきちんとして理解することが必要」と言いました。悠介も私も、最初は意味が分かりませんでした。けれど、ミンミンが悠介にまっすくに向き合い、本音でぶつかり合ったことで、人と人とおたがいを尊重して理解していくことなんだと気付いていきました。

それは、にげたくなるへらいしんどくて辛いかも知れませんが、でも、そこを越えると、地平線の向こうが分かるんだと思います。

悠介のお父さんが、「生の宿題だと言った「いい顔」の意味。私は、きつとミンミンのように心がまっすくで、偏見のない目をした顔なのではないかと思えます。

最後に、悠介は、またミンミンの笑顔に会いに行こうと思っただけで終わります。大輪のひまわりのような笑顔に会いに、まっすくな地平線を見に行きたい。それは、偏見にとらわれないミンミンのような、まっすくな人間になりたいと願ったからだと思います。

私は、鏡で自分の顔を何度も見ます。ミンミンの顔を思い浮かべながら。そして、まっすくへな地平線のために必要なことをしっかりと考えながら。